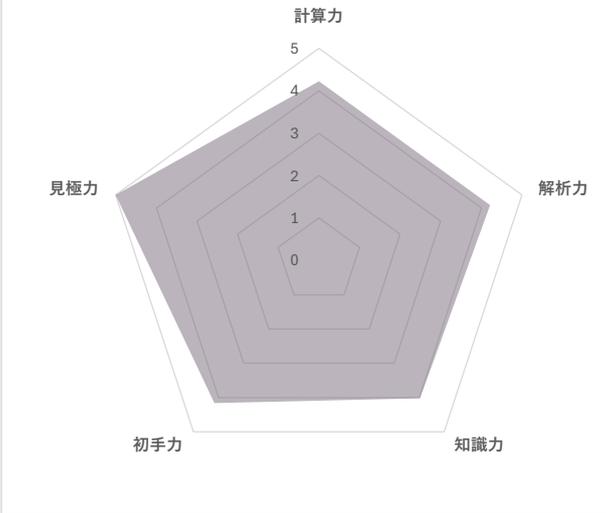


総合分析

試験区分 一般

制限時間 100分 大問数 全4問

合格に要する能力（5段階）



合格に要する能力（5段階）

計算力	4.0	高度な計算をやり遂げる力
解析力	4.0	問題文を正しく読み取る力
知識力	3.8	解くことに必要な知識の量
初手力	4.0	初手の難しさ
見極力	4.8	解きやすい問題を選択する力

特記事項

特になし

出題分野

数学 I	0%
数学 A	15%
数学 II	19%
数学 B	34%
数学 III	15%
数学 C	18%

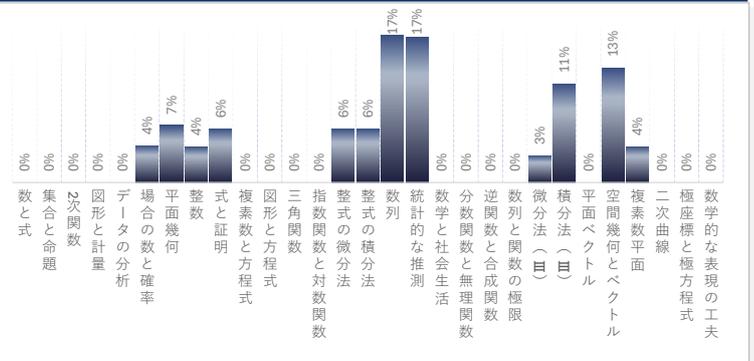
本年度 解答形式

答えのみ記述	0%
論述	50%

本年度出題テーマ一覧

第1問	小問集合
第2問	確率漸化式と期待値・分散
第3問	恒等式と微積分
第4問	図形内での(光の)反射

本年度 出題詳細分類



特殊問題の有無	記述あり	証明あり
統計あり	数IIIあり	長文なし

総合評価

難度	4.2	最難を5とする問題自体の難度	難しい	一次合格に必要な正答率（予想）	52%
分量	145分	完答に要する時間（制限時間は100分）	多い	正答率をさほど要さない	

入試の特徴と対策	▶ 他に類を見ない出題が多く、対策は難しい。学習では量より質が鍵となる。
入試から見る大学が求める学生像	単純な知識だけで解けるものはさほど多くなく、付け焼刃のような知識ではなく、しっかりとした知識を持っているのは前提とし、その場での対応力が必要であった。 これまでに学んできたものをしっかりと自分のものに落とし込み、その知識を運用できる応用力に優れた学生を求めていると考えられる。